

ここで今回は白色布に紫外線を照射し、その色の变化過程を光学測定により定量的に検討した。

2. 市販布、各種繊維の未加工および蛍光増白した材料を用い、ウェザ・オ・メーターによって、20時間60時間紫外線照射を行なった。次に蛍光分光光度計 FC-2型と分光光度計 EPU-2型を用いて分光反射率曲線を求め、CIE 色度図、RUCS 系座標、色差により白色度の変化をしらべるとともに肉眼観測を行なった。

3. 紫外線照射による白色布の黄褐化は、概して繊維材料の相違よりも、蛍光増白の影響が大きく現われる。蛍光増白された試料は紫外線照射によって分光反射率曲線の430~450 m $\mu$ の極大反射率が著しく減少し、かつ長波長域での反射率もこれに伴ってやや低くなる。蛍光増白しない試料は、紫外線照射によって前者のように特定の波長領域に反射率の急激な減少を示さず、全体にわたって一様にわずかに低下する。CIE 色度図に記入すると白色度変化は両者共主波長580m $\mu$ 方向に移動している。RUCS 系  $\alpha \cdot \beta$  座標で示すと蛍光増白した材料は紫外線照射によって  $\beta$  が著しく大となり、原布との色差は平均して約15 NBS 単位を示す。蛍光増白しない材料は徐々に  $\beta$  が大となり、色差は約3NBS 単位を示す。

B-34 被服地の白さについて (第2報)  
紫外線照射による白色度の変化について

椋山女学園大 椋山 藤子  
○加藤 雪枝  
八田 京子  
村上 悦子

1. 白色布の白さの基準についてはすでに報告したが、白色布は日光曝露、洗濯および保存の間に黄褐変化がみられ白色を持続させることは困難とされている。そ